

瀧谷山報

通巻

189

号

TAKIDANI
SANPOU

令和8年1月発行

法楽殿改装工事完了

4

初不動／節分会

6

瀧谷山報

令和8年1月発行 通巻189号

発行所 瀧谷不動明王寺

〒584-0058 富田林市彼方1762
電話 072-1134-0028 振替 009301517704

●発行人 荒谷純榮
●編集人 野口大真

今後の 当山行事予定



- 御本尊開扉大護摩供 本堂
時刻は下記の表に記載
- 大般若経転読付大護摩供 本堂
午前11時30分
- 瀧不動堂護摩供 瀧不動堂
午前9時頃～午後3時頃
(瀧不動堂にて山伏にお尋ねください)

- 開運福豆まき式 境内特設会場
〈第1回〉午前11時
〈第2回〉正午
〈第3回〉午後2時
- 節分会 厄除けのご祈禱 本堂
時刻は下記の表に記載
- 如意宝珠のお授け 客殿内特設道場
午前9時～午後4時
- 花まつり 4月1日～8日
午前9時頃～午後4時頃 寺務所
- 灌仏供養(甘茶かけ) 寺務所

初不動大法会 1月25日



節分会 2月3日



迎春期間のお護摩祈禱 (2月15日まで)

	午 前					午 後				
平日 土 祝	—	7時	—	10時	—	11時30分	1時30分	—	3時	—
日 曜 日	—	7時	9時30分	—	10時30分	11時30分	1時30分	—	3時	—
1月21日	—	7時	—	10時	—	11時30分	—	—	—	—
初 不 動	6時	—	9時30分	—	10時30分	11時30分	1時30分	2時30分	—	3時30分
節 分 会	—	7時	9時30分	—	10時30分	11時30分	1時30分	2時30分	—	3時30分 5時

日々のお護摩祈禱 (2月16日以降) 本堂

- ◇ 土日祝 午前7時 10時 11時30分 午後1時30分 3時
- ◇ 平 日 午前7時 10時 11時30分

交通安全祈願 (車のご祈禱) 法楽殿

- ◇ 午前9時～午後4時 毎時0分・30分
- 毎月第4日曜日、2月3日前後(豆まき舞台設営・解体の間)は交通安全のご祈禱はありません。

月例祭 (毎月第4日曜日)

- ◇ 御本尊開扉大護摩供 本堂 午前6時 10時 11時30分 午後1時30分 3時
- ◇ 瀧不動堂護摩供 瀧不動堂 午前9時頃～午後3時頃
- 月例祭は交通安全のご祈禱はありません。

行事の予定は変更になる場合がございます。
詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時ご案内いたしますので、
来山前に今一度ご確認ください。



日の丸フラッグを軽やかに背負って華々しい活躍をみせる競技選手が昨今は増えた。各種競技大会が世界中で開かれ、昨秋にはデフリンピックが日本初開催となった。日本選手に限らず、堂々たる姿勢で競技に挑むすべての選手たちに、感銘を受けて勇気をもらったと感じた人も多からう。

筆者もご多分に漏れず、テレビ観戦などで歓声を上げるひとりである。観戦していると、時折あたかも自分がその競技の達人であるかのような錯覚も生じさせるが、無論どれも満足にプレーなどできるはずはない。思い返せば運動会の徒競走で一等を取ったこともなく、泳げるようになったのもずいぶん遅く、鉄棒は最大の苦手であった。そのような苦い経験ばかりにもかかわらず、身体の力を存分に発揮するさまに今も惹かれるのはなぜだろうか。

近頃は選手をアスリート(athlete)と呼ぶ。辞書によれば、この言葉はギリシャ語が語源でラテン語を経由して英語に用いられたとあり、その意味には運動家、競技者、さらに

強壮な人を指すという。確かにギリシャ彫刻には屈強で逞しい肉体表現された作品が多数みられ、「壮健な人」すなわちアスリートの定義にぴったり叶う。一方でスポーツ(sport)という用語もひろく使われる。こちらは運動、競技はもとより娯楽や冗談の類いまで広範囲な意味を含む。気楽さを伴うスポーツには親近性が生まれやすく、精度の高いアスリートには強い畏敬の念も生じて心惹かれるのではなからうかと、勝手な推測をしたりもする。

わが国にもこのアスリートの精神性を彷彿させる競技がいくつもある。柔道、剣道、合気道、弓道、相撲道を始めとする「道」という名で語られる世界である。瞬発力を発揮させる動きや静寂の中で見せる集中力など静と動を合わせもち、礼儀をつとに重んじるゆえに特有の所作などが確立している。このような独自性、指向性を「道」という概念で極めてゆくことは、当然身体と精神の双方を高めることに直結する。

てゆくことができる。

かつて大相撲で的一幕、大一番を制した力士が土俵上で鬼の形相と化した。日頃の柔和な表情に比しての違いに皆が驚いた。集中力の極致を垣間見られた瞬間、相撲道もまた奥が深い。

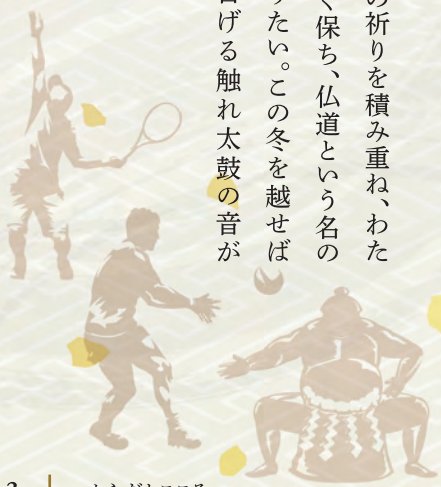
最後に余談。からきし運動能力がない筆者がやや得意としたのが相撲であった。今も好角家を自認するが、大相撲はスポーツとアスリートの両方を兼ねている思いがする。しのごを削る稽古や本場所の厳しさはアスリートそのものの。反面「花相撲」と称される地方巡業は娯楽性を伴う楽しさでスポーツの領分。直径わずか十五尺の土俵を神聖な場とわきまえて「身心一如」の名勝負、正しき伝統とはこうした練磨の積み重ね以外には為し得ないものだろう。

すでに年も明けた。お不動さまへの祈りを積み重ね、わたしたちもこの身体と精神を均衡よく保ち、仏道という名の道場に立つアスリートの一員になりたい。この冬を越せば春近し、大阪の街には春場所を告げる触れ太鼓の音が響く。

A sound mind in a sound body という英語のことわざは、「健全な精神は健全な肉体に宿る」と一般的に訳されることも多いのだが、その真意は古代ローマの哲人に委ねるとして、精神と肉体の不可分さに気付くのは洋の東西を問わない。「道」という境地を拓いたわが国の先人も同様に気付き、それはまた「身心一如」「色心不二」を説いた仏教の考えと気脈を通じさせる。

仏教では肉体や物質を「色」あるいは「色蘊」と称する。対して精神を「心」と呼び、詳解すれば「心王」ともいう。漫然と暮らしている時、わたしたちは肉体と精神の関係をしっかりと把握することは少ない。たとえば著しい空腹時には、食えることだけで頭がいっぱい。眼も鼻や舌など五感たる肉体が全力で食べ物を欲する。しかしいざ腹を満たせばそうした肉体の欲求は治まり、代わりに別の欲望が頭をもたげて精神はそれに支配される。言うなれば、わたしたちは身体と精神のはざままで右往左往しているばかりだろう。

それゆえにこれらは本来ひとつだと見定めて、身体と精神をみごとに制御する世界への扉を開き、「身心一如」「色心不二」となりと仏道は看破する。仏教を抛りどころとする人々は、その扉の先に広がる世界に多少なりとも触れ



法楽殿改装工事 完了のお知らせ



「大師井戸」 および 「お加持水舎」 整備について

当山から東へ約200メートルに位置する旧「大師井戸」は、弘法大師が当山を開創された際にお加持され、そこから霊水が湧き出たと伝えられる由緒ある井戸です。古くからこの霊水は「お加持水」と称され、地域の皆様やご参拝の皆様に尊ばれておりましたが、水質の悪化や井戸館の老朽化が進み、対策が必要となっていました。

また、境内の加持井から取水する「お加持水舎」についても、殺菌・濾過設備の不調により、令和6年末より長らくご利用を休止しておりました。これらを

踏まえ当山では、令和11年の「酉年御開帳」に向けた記念事業の一つとして、以下のような整備を実施することになりました。

◇老朽化した井戸屋形の解体、井戸本体の埋設（令和7年9月完了）

◇お加持水舎を鐘楼堂正面へ移設、殺菌・濾過設備の更新（令和7年12月完成予定）

◇旧大師井戸本尊のお大師様の参拝所を、旧お加持水舎跡地へ移設

昨夏より行っておりました法楽殿の改装工事が、昨年10月13日をもって無魔竣工いたしました。

今回の工事は、来たる令和11年（西暦2029年）酉年記念事業の第一弾として実施。当山の境内ほぼ中央に位置する法楽殿は、交通安全祈願所として昭和39年に建立されましたが、61年に及ぶ使用により各所の痛みが目立ち、さらに夏場の暑熱の問題に悩まされていました。

この改装工事により外壁塗装や内部の荘厳具が一新され、法楽殿は新築のような姿に。また空調設備を導入し、快適にお参りいただけるようになりました。さらに本尊のお不動様も、職員総出で搬出し、仏師さんにお体を洗っていただきました。61年間、ほぼ休みなく働かれたお不動様には、しばしのご休息となったのではないのでしょうか。身支度を整えられ、これからは新しくなった法楽殿から、交通安全のご利益を施してください。ことと存じます。

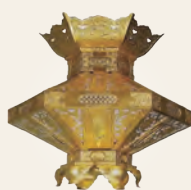


白布を纏われ、お不動様を搬出

今回の工事では、損傷の激しかった外陣の吊灯籠を更新するべく、左記の通りお施主様をお募りしております。皆様にはご多端の折誠に恐縮ながら、伏してお願いを申し上げます。

六角菱灯籠（3尺）

募集数 1基 200万円



六角高野型吊灯籠（7寸）

募集数 20基 50万円



灯籠には、それぞれ透かし彫りにてお施主様のお名前を刻印いたします。

「お加持水舎」は、時間を要しましたが安全な取水のため殺菌・濾過設備を新たにし、再開に向けて準備を進めております。（最新情報はホームページをご確認ください。）

また、お大師様の参拝所は、令和8年春頃の完成を予定しております。

ご参拝の折には、どうぞ寺務所前のお大師様にお参りいただき、新しいお加持水舎をご利用ください。

初不動

一月二十五日（日曜日）

大般若経転読付大護摩供 厳修



令和8年1月25日（日）、初不動大法会を厳修いたします。一年最初のお不動様のご縁日は古く「初不動」と呼ばれ、とりわけ大事なものとされてきました。昨年より法要は日取りの近い第4日曜日にお勤めし、御本尊ご開扉のもと、お護摩祈禱をいつもより回数多くお勤めします。午前11時半からは、国家安穩、万民豊樂等を祈念する大般若経転読付大護摩供を厳修し、あわせてご参詣皆様のお願いを祈願いたします。

なお当日は、大変多くのご参詣が予想されます。時間に余裕を持つてお越しいただき、ご祈禱の受付は早めにお済ませください。

- ◆ 大般若経転読付大護摩供 本堂
○午前 11時30分
- ◆ お護摩祈禱 本堂
ご祈禱時刻 … 裏表紙に記載
ご祈禱料 … 5,000円より
- ◆ 瀧不動堂護摩供 瀧不動堂
○午前 9時頃～午後 3時頃
(瀧不動堂にて山伏にお尋ねください)
護摩木 … 1本 300円

節分会

二月三日（火曜日）

厄除大祈願祭



節分開運福豆まき式

来る2月3日（火）、当山では節分会の開運福豆まき式を盛大に執り行います。

節分の行事は宮中の厄除けの儀式「追儺^{ついな}」に由来するとされ、当山でもさまざまな行事が行われますが、年男、年女の方が華やかに豆をまく豆まき式は、そのハイライトとなります。当日は特別ゲストの林家染二師匠を始め、大勢の年男、年女の方が豆をまかれます。お誘い合わせの上、溢れる福をいただきに、ぜひお参りください。

節分当日は混雑が予想されます。時間に余裕を持つてお越しください。

- ◆ 開運福豆まき式 境内
2月3日（火）
第1回 … 午前 11時
第2回 … 正午
第3回 … 午後 2時



節分当日、意のままにあらゆる願いをかなえるとされる宝物「如意宝珠」のお授けをいたします。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理如来の分身なり」と述べられ、如意宝珠とは、如来のお身体そのものとして、限らない慈悲の心に満ちたものであると説かれています。弘法大師以来、

如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切にお祀りしておりますが、皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただきたいという思いから、一年に一度のみ、節分会に皆様にお授けしております。

お授け後、如意宝珠守を授与いたします。財布等に入れ、肌身離さずお持ちください。

如意宝珠のお授け 客殿内特設道場

- ◆時間 午前9時〜午後4時
- ◆ご志納 1体 1000円以上



厄年は、災厄を受けやすく、肉体的、精神的、社会的な節目を迎える年齢です。当山では、厄年を無事に過ごし、健やかにより良い毎日を送れますよう、厄除けのご祈祷をお勤めしております。

厄除けは古来、旧暦で一年の節目である節分までにするものとされ、当山でも節分当日は、特に盛大にお勤めいたします。（厄除けのご祈祷は、節分に限らず一年中お受けいた

令和8年厄年早見表（年齢は数え年）

男 性			女 性		
平成 14 年生まれ	25才	厄 年	19才	平成 20 年生まれ	
昭和 61 年生まれ	41才	前厄年	32才	平成 7 年生まれ	
昭和 60 年生まれ	42才	本厄年	33才	平成 6 年生まれ	
昭和 59 年生まれ	43才	後厄年	34才	平成 5 年生まれ	
昭和 41 年生まれ	61才	厄 年	37才	平成 2 年生まれ	
			61才	昭和 41 年生まれ	

厄年とは…

厄年は古来、星の巡り合わせが悪く、災厄を受けやすい年齢とされています。また社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかかって病気になりやすい年齢、結婚・出産・育児等生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。特に男性の42歳・女性の33歳は本厄と言われ、前後にひびく厄とされています。



だけです。ご都合の合わない方は、時節にこだわらずお参りください。）
節分当日は、大変多くのご参詣が予想されます。時間に余裕を持つてお越しいただき、ご祈祷の受付は早めにお済ませください。なお本堂は伝統建築のため、冬季は冷え込みます。お参りの方は、暖かい服装でお越しください。

厄除けのお護摩祈祷 本堂

- ◆祈祷時刻 裏表紙記載
- ◆ご祈祷料 5000円より

当山では、一年の節目である節分の日、「星まつり」と称しまして人々の吉凶を左右する九曜星を供養し、災いを除き福を招くお預かり祈祷をお勤めしております。年齢や当星にかかわらず、同封の用紙にご記入いただき、一年を平穏無事に過ごし、運が開くよう願ってお申し込みください。

節分までにお札をご用意しますので、1月20日までに同封の用紙でお申込みください。

星まつり祈祷

- ◆祈祷料 1名 1000円
- ◆締切 1月20日
- ◆申込方法 同封の用紙にご記入の上、寺務所または郵送で受付
- ◆お札のお渡し 寺務所でお渡しの方は2月5日以降、郵送の方は2月10日以降



星まつりのお札

令和8年九曜星早見表（数字は数え年）

○ 木曜星	◐ 月曜星	● 計都星	● 火曜星	○ 日曜星	◐ 金曜星	○ 水曜星	◐ 土曜星	● 羅喉星
大吉	半吉	大凶	大凶	大吉	末吉	大吉	半吉	大凶
九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白
平 30 戌 9	平 31/令元 亥 8	令 2 子 7	令 3 丑 6	令 4 寅 5	令 5 卯 4	令 6 辰 3	令 7 巳 2	令 8 午 1
平 21 戌 18	平 22 卯 17	平 23 辰 16	平 24 辰 15	平 25 巳 14	平 26 午 13	平 27 申 12	平 28 申 11	平 29 酉 10
平 12 辰 27	平 13 巳 26	平 14 午 25	平 15 未 24	平 16 申 23	平 17 酉 22	平 18 戌 21	平 19 亥 20	平 20 子 19
平 3 未 36	平 4 申 35	平 5 酉 34	平 6 戌 33	平 7 亥 32	平 8 子 31	平 9 丑 30	平 10 寅 29	平 11 卯 28
昭 57 戌 45	昭 58 亥 44	昭 59 子 43	昭 60 丑 42	昭 61 寅 41	昭 62 卯 40	昭 63 辰 39	昭 64/平元 巳 38	平 2 午 37
昭 48 丑 54	昭 49 寅 53	昭 50 辰 52	昭 51 辰 51	昭 52 巳 50	昭 53 午 49	昭 54 未 48	昭 55 申 47	昭 56 酉 46
昭 39 辰 63	昭 40 巳 62	昭 41 午 61	昭 42 未 60	昭 43 申 59	昭 44 酉 58	昭 45 戌 57	昭 46 亥 56	昭 47 子 55
昭 30 未 72	昭 31 申 71	昭 32 酉 70	昭 33 戌 69	昭 34 亥 68	昭 35 子 67	昭 36 丑 66	昭 37 寅 65	昭 38 卯 64
昭 21 戌 81	昭 22 亥 80	昭 23 子 79	昭 24 丑 78	昭 25 寅 77	昭 26 卯 76	昭 27 辰 75	昭 28 巳 74	昭 29 午 73
昭 12 丑 90	昭 13 寅 89	昭 14 辰 88	昭 15 辰 87	昭 16 巳 86	昭 17 午 85	昭 18 未 84	昭 19 申 83	昭 20 酉 82
昭 3 辰 99	昭 4 巳 98	昭 5 午 97	昭 6 未 96	昭 7 申 95	昭 8 酉 94	昭 9 戌 93	昭 10 亥 92	昭 11 子 91
大 8 未 108	大 9 申 107	大 10 酉 106	大 11 戌 105	大 12 亥 104	大 13 子 103	大 14 丑 102	大 15/平元 寅 101	昭 2 卯 100

厄年… 前厄年・後厄年…



節分会に向けて、お不動さまにお供えしました開運福豆を授与しております。福豆は、ご自宅にて小分け袋に入れ豆まきをされたり、節分のお下がりとしてお召し上がりください。

また迎春期間中（2月15日まで）、令和8年新春の縁起物を授与しております。どうぞ期間中にお受けください。

◆ 志納料 1袋 300円
開運福豆



林家染二師匠

2月3日の節分当日、開運福豆まき式にて豆をまいていただく年男、年女の方を、募集いたします。当たり年（今年は午年に限らずご応募いただけます。参加者には、当山用意の陣羽織で装束を整えて出陣し、本堂にて開運招福・福寿増長を祈願してお護摩祈祷を受けていただき、その功德を福豆まきにより大勢の方々にもお福分けいただきます。節分会特別祈願護摩札、熊手等のお下がりをお渡しします。また、ゲストの林家染二師匠との記念撮影があります。

- ◆ 日時 2月3日（火）
- ◆ 第1回 午前11時（午前10時集合）
- ◆ 第2回 正午（午前11時集合）
- ◆ 第3回 午後2時（午後1時集合）
- ◆ 支具料（参加料） 2万円
- ◆ お下がり
- ◆ 特別祈願護摩札 熊手 粗品
- ◆ 記念写真（後日郵送）
- ◆ 性別不問、ただし成人に限ります。各回定員があります。
- ◆ お問合せ 寺務所



お寺のごはん

22

ふろふき大根

材料

大根 だし昆布
お味噌（お好みで赤味噌または白味噌）

作り方

- 一 お大根は3〜4センチに輪切りにいたします。皮を厚めに剥いて片面に十字に隠し包丁を入れます。
- 二 お鍋に昆布を敷いて、お大根が重ならないように並べます。
- 三 たっぷりのお水を張って中火でお大根がとろとろになるまでコトコトと煮ます。少なくとも3〜4時間は煮ます。
- 四 熱々を器に盛り付けて、上からお味噌をかけます。

昆布だしがしみたとろとろお大根でほっこり♪



一年中市場に出回っているお大根ですが、寒さが増してまいりますとさすがにお大根は冬のもの、みずみずしくおいしくなっています。そんなお大根を使ってふろふき大根を作りたいと思います。

ふろふき大根は簡単でご馳走ぶりが上がりますので、お客さまにもお出しできますし、またお惣菜としても冬場はとても重宝いたします。

お味噌は、赤味噌の場合は胡麻味噌や生姜味噌に、白味噌は柚子味噌などお好みでなさってください。